

## (18) 教室を運営していく上での課題

### ① 教室運営や学習支援活動の課題

複数回答可(教室)

	全体	識字教室	日本語教室	識字・日本語 教室
ア 学習支援者の人数が不足している(学習支援者の確保)	121	13	68	40
イ 学習者が不足している(学習者の確保)	23	4	12	7
ウ 学習支援者が高齢化している	136	14	83	39
エ 費用が不足している	36	4	22	10
オ 学習者と学習支援者のマッチングが難しい	60	5	40	15
カ 学習支援者への研修機会が不足している	43	0	26	17
キ 教室の周知・広報が不足している(できていない)	38	8	11	19
ク 学習教材が不足している	20	2	10	8
ケ 多様化(国・レベル・ニーズ等)する学習者への対応が難しい	82	5	56	21
コ 学習者が流動的である(学習者が定着しない)	46	0	27	19
サ 学習支援者が流動的である(学習支援者が定着しない)	21	0	11	10
シ 人権意識をどう向上させるか	43	1	24	18
ス 学習場所の確保が難しい	7	0	7	0
セ 学習者から日常生活等に関する相談を受けることがある	43	2	22	19
ソ その他	22	2	15	5
タ 特になし	9	4	1	4
記述・選択なし	6	2	1	3

(その他の回答)

- ・学習希望者が多く定員の関係で希望する全ての学習者を受け入れることができない。
- ・近年需要が高まっており日本語学習初めてクラスが満員となり受講できない学習希望者がでてしまっている。
- ・土曜日の夕方の授業を希望する学習者が圧倒的に多く、現有の学習支援者で対応しかねる場合もある。
- ・学習場所がIT環境にない。Wi-Fiが利用できず、学習者用の端末もない。したがって、Web上の教材を活用することができない。
- ・高齢化により長い距離の歩行が困難な学習者の増加に伴い、研修等外部に出かける際に付き添う支援者の負担が増加している。
- ・外国人の方への対応が不可欠になってきており、日本語教室と識字教室との線引きが難しい。今後、情報や予算管理等の統一適正化が必要とされる。
- ・申込み者が常に定員を超過しており、待機状態の学習者の人数が多い。
- ・学習教材が古い。
- ・学習支援者が増えないために、増加する学習者の受け入れが十分にできない。
- ・地元の学習者がいなくなり、教室で被差別部落に関することが学びにくくなっている。
- ・日本語が殆ど理解できない学習者への対応、学習方法、ボランティアミーティングの運営、オンラインの広報と費用。
- ・学習者の日常の困っていることや課題などがつかめていないのではないと思われる学習支援者がいる。また、学習者からの質問に軽く対応している場面が見受けられるが、それを支援者全体の課題にするにはどうすればよいか。

## ② 学習者が困っていること(自由記述)

- ・労働するにあたり、日本語でのコミュニケーションが上手にできない。
- ・週1回の開催なので、もっと開催日を増やして欲しい。
- ・無料で学習できる機会が少ない。
- ・教室が自宅から遠い。
- ・フルタイム就労資格の取得。
- ・支援者の不足で学習者の待機が続いている。
- ・難民申請中だがなかなか認定されない。
- ・労働条件が厳しく、突然の出勤命令も頻繁にあり、教室になかなか来ることができない。
- ・子どもの幼稚園や学校などからの配布物の日本語が難しく理解できないことがある。
- ・ほとんど日本語がわからない状態で家族に呼び寄せられる形で生活しているが、コミュニケーションが取れない。勉強が難しいといった点。また、その状態でもすぐにでも働きたいという気持ちがあり、勉強の時間を取れないので、ますます孤立化していく。
- ・方言(大阪弁)が難しい。
- ・勤務先が多忙で休日出勤や残業を命じられ、学習会に来られないこともある。
- ・求職。
- ・地域との関わり。

- ・教科学習（日本語の理解が困難なため学校での教科学習についていけない）。
  - ・高度な学習をしたい学習者の要求にこたえられる支援者が少ない。
  - ・日曜日に開催している日本語教室が少ない。
  - ・進路に関しての情報が少ないうえ、親に母語で支援できる体制が乏しい。
  - ・放課後、小学校で無料の学習支援が再開されたが親が迎えに行く必要があるため、利用できない。
  - ・徒歩、自転車で7～9月に公民館で来ることが苦痛になる。
  - ・コロナ以降開催していない。
  - ・生活のために日本語学習が進まず、交友関係は、同じ出身国のコミュニティに限られていることがある。
  - ・大学の研究室では毎日英語なので、もっと日本語を話す機会がほしい。もっとたくさんのレベルのクラスがあるといい。
  - ・もっと日本語を話す機会がほしい。もっとたくさんのクラスがあるといい。
  - ・日本語がまだ話せない子どもにとって母語でコミュニケーションがとれるサポーターが一人でもいたらいい。近くに国際交流協会がないので、通にくい（車や自転車がない、公共交通機関では時間と交通費がかかる）。低学年の子どもは親が送迎できるなら継続できる。
  - ・日本語がまだ話せない子どもにとって母語でコミュニケーションがとれるサポーターが一人でもいたらいい。
  - ・公立の小中学校での日本語サポートだけでは足りない。近くに国際交流協会がないので、通にくい（車や自転車がない、公共交通機関では時間と交通費がかかる）。低学年の子どもは親が送迎できるなら継続できる。
  - ・識字教室の経緯を知っている人が少なくなっている。
  - ・仕事優先になり、継続的な出席が困難な学習者が多いです。
  - ・高齢化に伴い、病気や手術、入院、足腰の衰えなどのため、学び続けたくても、教室に通えなくなることがある。
  - ・長い距離の歩行が困難な方が増加しており、教室に毎週通うのが難しくなっている方もいる。
  - ・日本人と同じ職場・部署で働いていても残業や夜間の仕事は外国人が担当になる、派遣会社に就職したものの何か月も仕事先が決まらない、ビザの取得、更新が難しいなどです。
  - ・アンガーマネジメント。
  - ・学校、病院、永住権、国勢調査について。
  - ・一緒に来日した子ども（就学児）が入学した小学校・中学校で授業についていけないこと。
  - ・日常生活における会話、文章などを読むことができないので、困っている。
  - ・働きながら学んでいる学習者は、学習時間の確保が難しい。
  - ・日本語を十分に理解できないために、市民としての日常生活に支障が起こることがある。
  - ・近隣の日本人と親しくなるのが難しい（孤立しがちになる）。
  - ・活動に途中参加の人が活動の進捗についていけない事例が見られる。
  - ・中退する事例が極めて少なく、待機状態の学習者は活動に参加できないケースが多い。
  - ・基本的にマンツーマンの活動であるため、宗教的・年代的等の関係で担当学習支援者との相性が合わないこともある。その都度、事業担当者がマッチングを調整している。
  - ・上級者向け活動であるため、学習者の到達度によって会話への参加が難しい学習者がいる。  
一方、理解度の高い学習者は学習者間の理解差があることで、活動に参加する意欲が低下するケースもある。
- 以上の状況を踏まえ、事業担当者と学習支援者はグループ分けを慎重に行っている。

- ・中退する事例が極めて少なく、待機状態の学習者は活動に参加できないケースが多い。
- ・日本語の状況によって4つのグループに分かれています。初心者のグループにおいてはカリキュラムが進むに伴い、途中参加の初心者の対応が難しい。
- ・読み書きはできるようになるが、その漢字をどのように運用するかを理解することは難しい。
- ・交通の便が悪い。
- ・授業の回数が少ない。
- ・学習支援者と反りが合わなくても言いづらくてやめていくしかない。
- ・現在、学習支援者(ボランティア)の人数に対して学習者が非常に多いため、学習者個々の希望やニーズにきめ細やかに対応するのが難しい状況。
- ・学習希望者の急激な増加により、マッチングが困難。
- ・日本語力がたりないと職場で指摘されることがあり、自信が持てないからと教室に来始めた複数の学習者が訴えているが、それぞれの日本語力は比較的高く、しかも精いっぱい努力している。むしろ周りの日本人に問題があるのではないかと思われる。
- ・当教室を終了した後のオンライン等での学習機会の確保。
- ・交流が特定のグループ内でのみ限定されているため、他の学習者同士との交流機会が不足している。
- ・子どもによっては、教室以外の場(支援団体や家庭)で日本語を学習する機会が少ない場合がある。
- ・日常生活・職場で、日本語での会話をする機会の不足。
- ・この教室は初級～中級クラスが主なので継続学習で上級をめざしたい者のクラスがない。
- ・この教室と同費用、同指導内容の上級クラスが他所でも見つからない。
- ・特に相談はないが、仕事などの関係で教室に来れなくなった人が多い。
- ・個人的な事の内容が多く、どこまで寄り添っていくべきなのかと悩ましい。
- ・高校生年代で渡日した学習者が複数おり、日本の中学校を経ずに高校受験をめざしている。こうした学習者は家族ともに情報や支援の機会が少ないため、困難な状況に置かれることが多い。また、仕事のために来日している学習者では、職場で会話の機会がなく、居場所となるコミュニティが少ないことがよく聞かれる。
- ・「よみ・かき・ことば」はもとより、そればかりではなく、生活全般について多種多様な困りごとが存在している。相談を受けても、教室という現場だけで解決できることは少ないが、関係機関につなぐなど精一杯の努力をしている。教室が存在することが、学習者に大きな安心をもたらしている。
- ・高齢になり教室に通うのがしんどくなってきている。
- ・残業等で来られない人が多い。
- ・学習意欲はあっても、時間の確保が難しい。
- ・学習機会が少なすぎる事。
- ・全く話せない子どもを学校に通わせていること。